

景況

レポート
2025年1～3月期調査

景気動向の概況

業況DIは
前期比9.2ポイントマイナス

今回のアンケート調査は、企業のコスト負担が厳しさを増し、個人消費や設備投資の回復が鈍い状況下で実施いたしました。今期の全業種業況DIは▲11.7の前期比9.2ポイントマイナスとなり、全体の業況判断としては悪化となりました。小売業や不動産業の業況については持ち直しの動きが見られましたが、卸売業が大幅に悪化したほか、製造業についても悪化しました。建設業については関西万博の開催を控え好調に推移していましたが、今期から来期にかけては減速の動きが見られます。政府は賃上げの促進や中小企業支援を進めていますが、景気の本格的な回復には時間を要する見通しです。また、1月に就任したトランプ大統領の関税政策の見直しにより、日本の輸出産業への影響が懸念されています。今後は、米国の通商政策や国内物価動向に注視し、コスト増や市場環境の変化に適応する対応力が求められます。

調査要領

調査要領	依頼先数		回答数		回答率	
	合計	1583社	436社	27.5%		
	製造業	355社	120社	33.8%	小売業	253社
	建設業	287社	74社	25.8%	不動産業	118社
	卸売業	284社	75社	26.4%	サービス業	286社

調査時点／2025年2月12日～3月6日

調査依頼先／当庫取引先

調査方法／郵送調査

調査対象期間／[今期]2025年1月～3月

[前期]2024年10月～12月

[来期]2025年4月～6月

分析方法／「増加」(上昇)したとする企業の占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(DI)により分析を行った。

※DI: Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス)

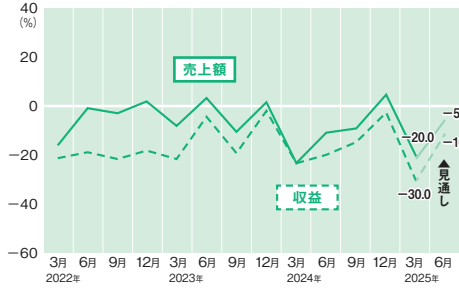
製造業

業況は悪化、
来期は横ばいの見通し

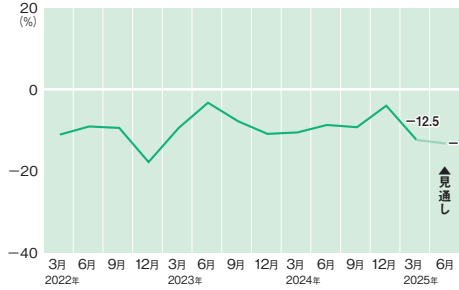


10年間の推移(業況DI)

売上額・収益DI(前期比)
売上額DIは大幅に悪化、
収益DIも大幅に悪化

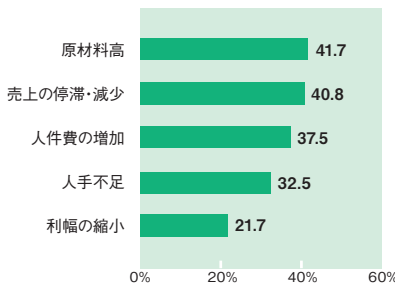


資金繰りDI
資金繰りDIは悪化



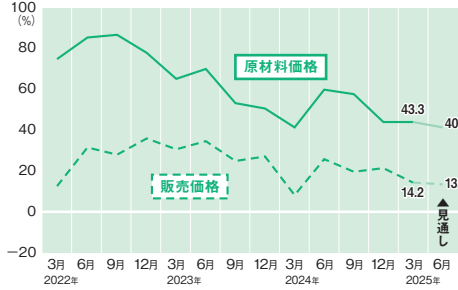
経営上の問題点

原材料高と売上の停滞・減少が課題



価格DI

原材料価格DIは横ばい、
販売価格DIはやや低下





お客様の声

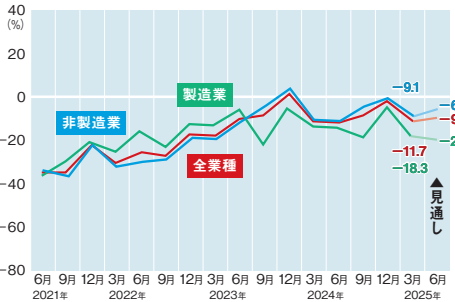
- 売上が減少しているが、社員が1名減少したため利益は確保している。今後売上が増加すれば増員の必要がある。(摂津市 紙管製造業)
- 当社は小規模ながら特殊な製品のためあまり景気に左右されない。(川西市 機械部品製造業)
- 売上は変わらないが賃金は上げる必要があり困っている。(尼崎市 建具製造業)
- 原材料である海苔が高騰しており収益を圧迫している。得意先との価格交渉がポイントとなる。(大阪市 海苔製造業)

全業種総合DI

業況は悪化、
来期は横ばいの見通し

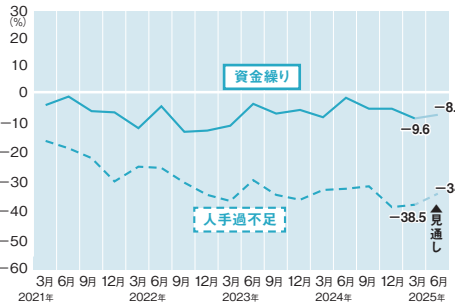
業況DIの推移

全業種の業況DIは▲11.7(前期▲2.5)で悪化しました。内訳は製造業が▲18.3(前期▲5.7) 非製造業が▲9.1(前期▲1.3)となっています。来期は横ばいの見通しです。



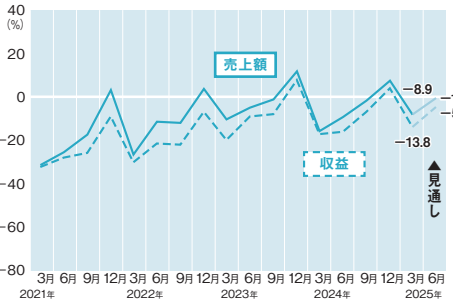
資金繰りDI・人手過不足DI

資金繰りDIは▲9.6(前期▲6.5)で悪化、人手過不足DIは▲38.5(前期▲39.3)で「不足」超となりました。来期は資金繰りDIが横ばい。人手過不足DIは「不足」超の見通しです。



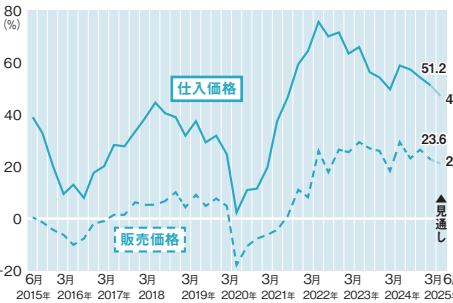
売上額DI・収益DI(前期比)

売上額DIは▲8.9(前期6.5)で大幅に悪化、収益DIも▲13.8(前期3.4)で大幅に悪化となりました。来期は売上額DI、収益DI共にやや改善の見通しです。



10年間の推移(価格DI)

価格は仕入価格DIが51.2(前期54.0)でほぼ横ばい、販売価格DIが23.6(前期27.4)でやや低下しました。来期は仕入価格DIがやや低下、販売価格DIは横ばいの見通しです。



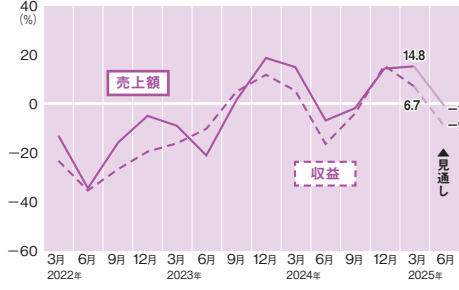
建設業

業況はやや悪化、
来期は悪化の見通し

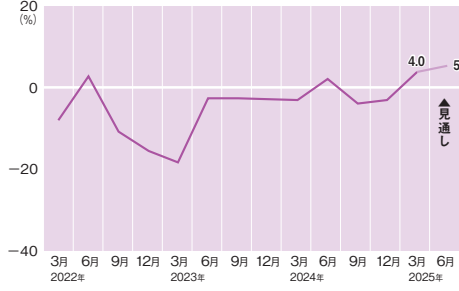


10年間の推移(業況DI)

売上額・収益DI(前期比)
売上額DIは横ばい、
収益DIはやや悪化

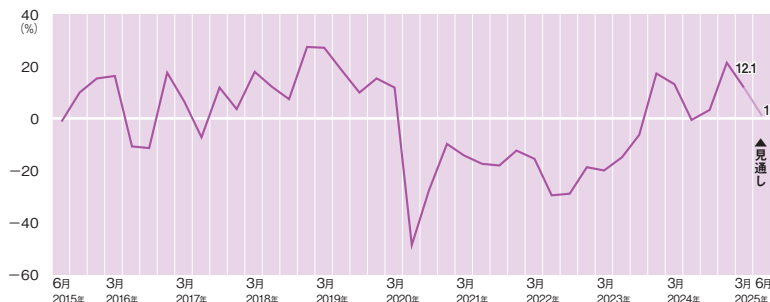
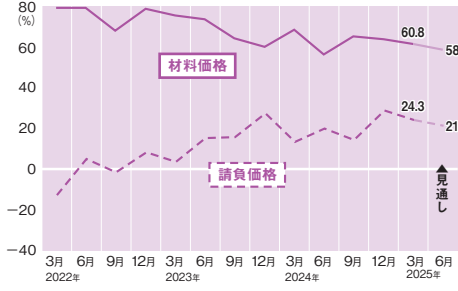


資金繰りDI
資金繰りDIはやや改善



価格DI

材料価格DIはほぼ横ばい、
請負価格DIはやや低下





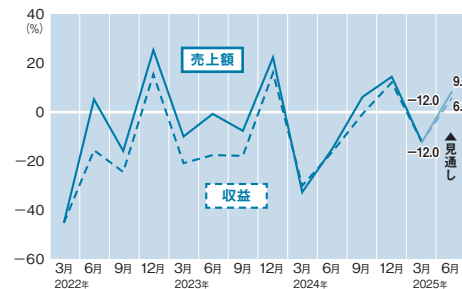
卸売業

業況は大幅に悪化、
来期はやや改善の見通し



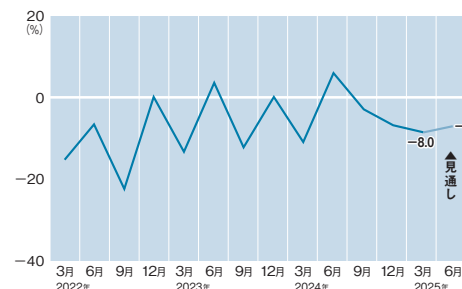
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは大幅に悪化、
収益D-Iも大幅に悪化



資金繰りD-I

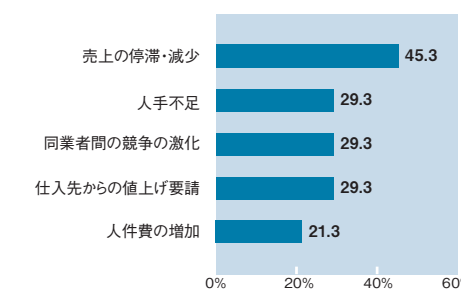
資金繰りD-Iは横ばい



10年間の推移（業況D-I）

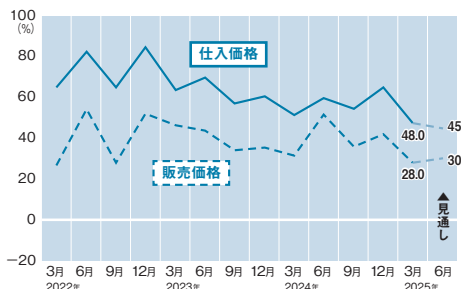
経営上の問題点

売上の停滞・減少が
一番の課題



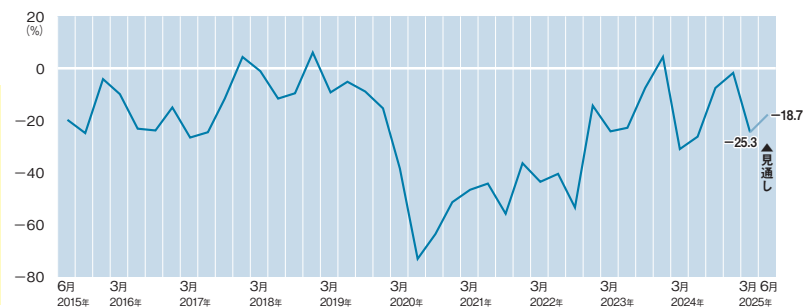
価格D-I

仕入れ価格D-Iは大幅に低下、
販売価格D-Iは低下



お客様の声

●SDGs、脱炭素推進の流れの中で原料である食用廃油の奪い合いとなっており確保と維持が課題。仕入れ価格の上昇により利益確保が難しく客数増加を目指していく。
(茨木市 油脂加工卸売業)



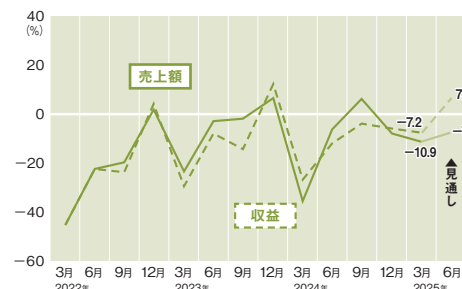
小売業

業況はやや改善、
来期は大幅に改善の見通し



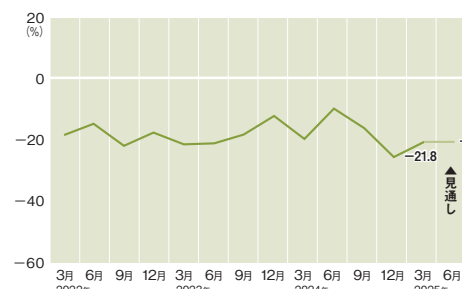
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは悪化、
収益D-Iは横ばい



資金繰りD-I

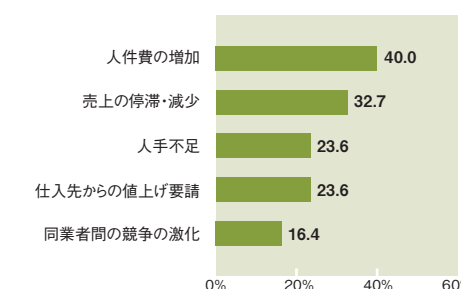
資金繰りD-Iはやや改善



10年間の推移（業況D-I）

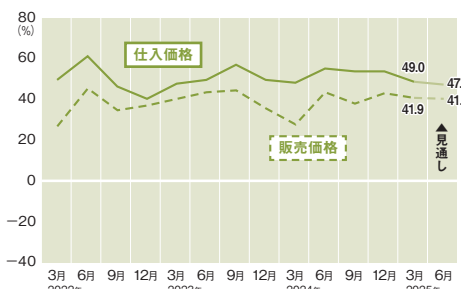
経営上の問題点

人件費の増加が
一番の課題



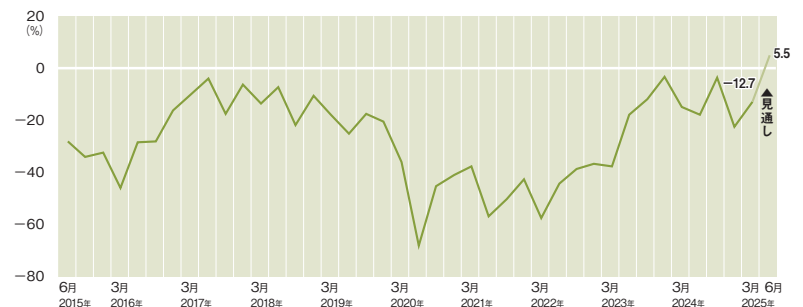
価格D-I

仕入れ価格D-Iはやや低下、
販売価格D-Iはほぼ横ばい



お客様の声

●金地金の高騰により記念品・贈答品などが予算オーバーで減少している。(大阪市 貴金属販売)
●周辺の企業が時給を上げるため、人材が集まらず困っている。(宝塚市 食料品販売)



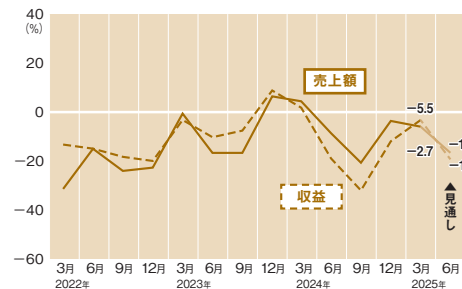
不動産業

業況は大幅に改善、
来期はほぼ横ばいの見通し



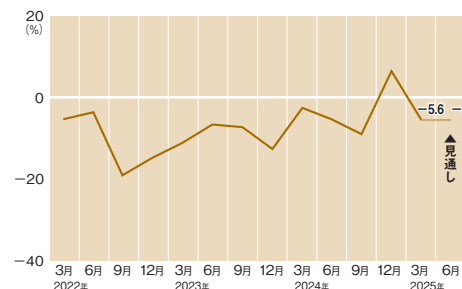
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iはほぼ横ばい、
収益D-Iはやや改善



資金繰りD-I

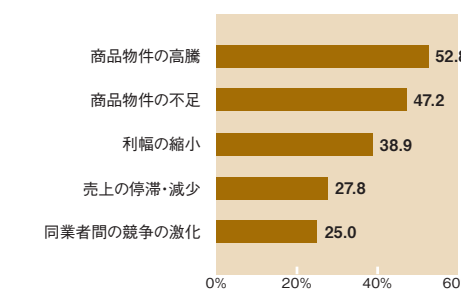
資金繰りD-Iは悪化



10年間の推移（業況D-I）

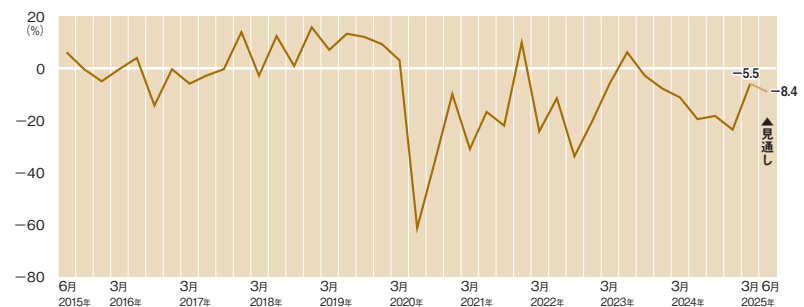
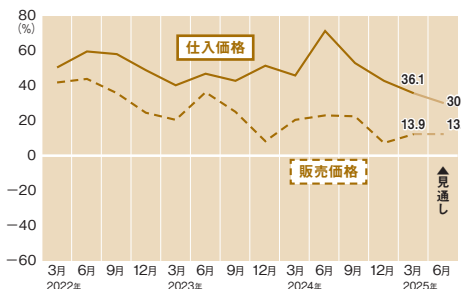
経営上の問題点

商品物件の高騰に加え
商品物件の不足が課題



価格D-I

仕入れ価格D-Iはやや低下、
販売価格D-Iはやや上昇



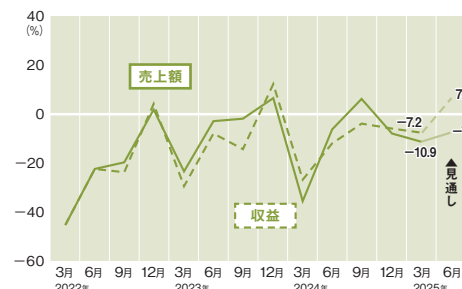
小売業

業況はやや改善、
来期は大幅に改善の見通し



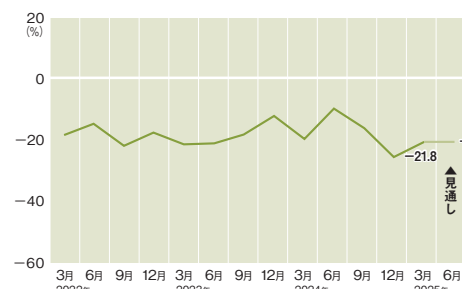
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは悪化、
収益D-Iは横ばい



資金繰りD-I

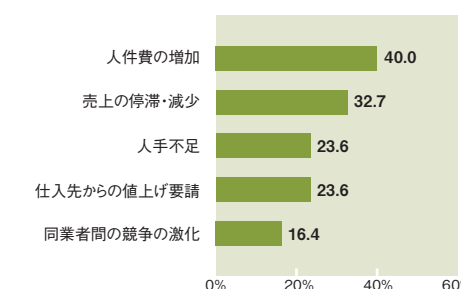
資金繰りD-Iはやや改善



10年間の推移（業況D-I）

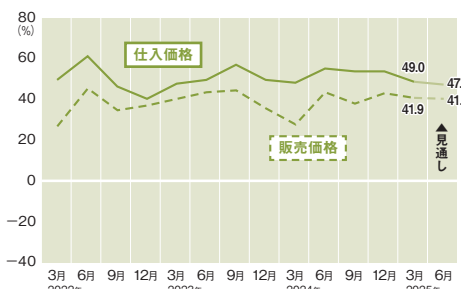
経営上の問題点

人件費の増加が
一番の課題



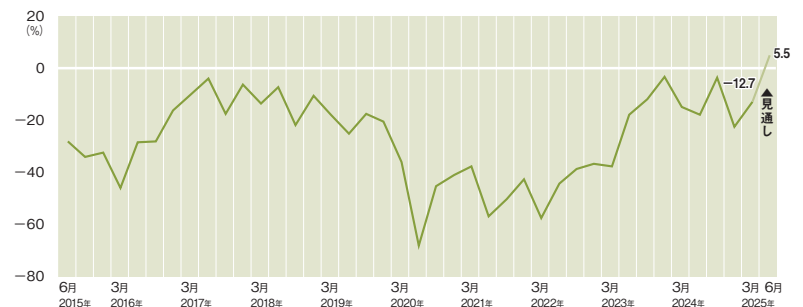
価格D-I

仕入れ価格D-Iはやや低下、
販売価格D-Iはほぼ横ばい



お客様の声

●金地金の高騰により記念品・贈答品などが予算オーバーで減少している。(大阪市 貴金属販売)
●周辺の企業が時給を上げるため、人材が集まらず困っている。(宝塚市 食料品販売)



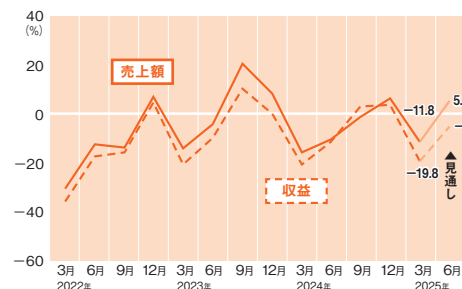
サービス業

業況は悪化、
来期はやや改善の見通し



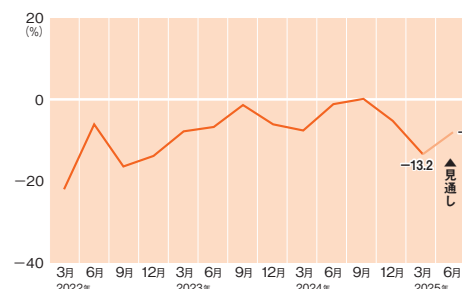
売上額・収益D-I（前期比）

売上額D-Iは大幅に悪化、
収益D-Iも大幅に悪化



資金繰りD-I

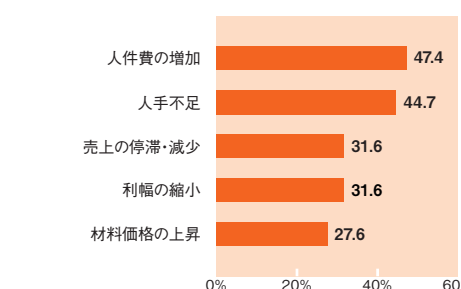
資金繰りD-Iは悪化



10年間の推移（業況D-I）

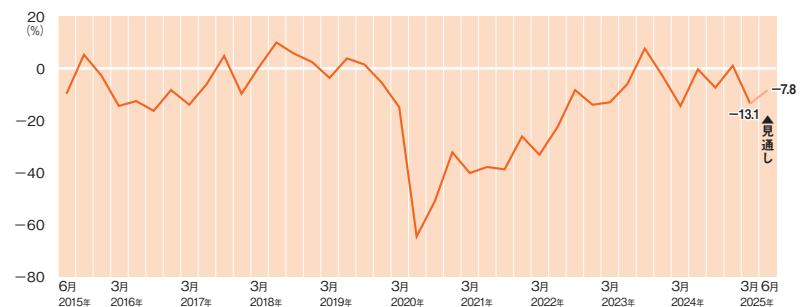
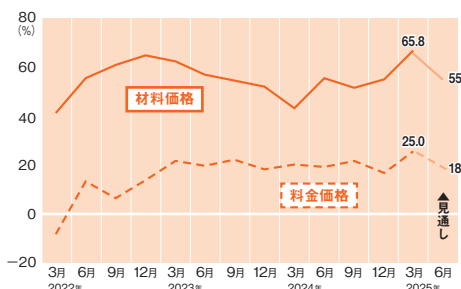
経営上の問題点

人件費の増加に加え
人手不足が課題



価格D-I

材料価格D-Iは上昇、
料金価格D-Iはやや上昇



お客様の声

●昨年に比べ売上・利益率共に上昇している。技術レベルの向上を目指していく。(大阪市 建設コンサルタント業)
●人材がなかなか集まらない。(尼崎市 美容業)
●景気の動向に大きく左右される可能性がある。(西宮市 美術館運営等)

特 別 調 査
2

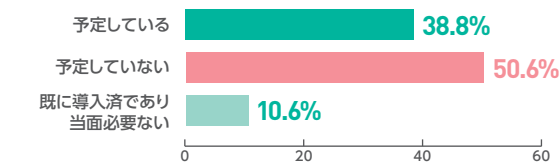
中小企業の設備投資に関する動向調査

中小企業における人手不足が深刻化する中で、企業が競争力を維持し、持続的な成長を実現するためには、生産性の向上が不可欠であります。現在、政府や地方自治体により設備投資に対する補助金や減税など様々な支援策が講じられています。設備投資は景気動向や業界の状況と密接に関係しており、経済環境を踏まえた意思決定が重要となります。今回は中小企業の設備投資に関する状況や今後の計画についてアンケートを実施いたしました。

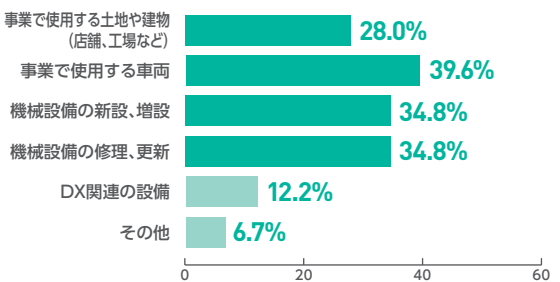
調査時期／2025年2月12日～3月6日 調査対象企業数／1583社 有効回答数／425社 有効回答率／26.8% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

Q1

貴社は今後3年における新規設備投資の予定はありますか。 ※1つ選択

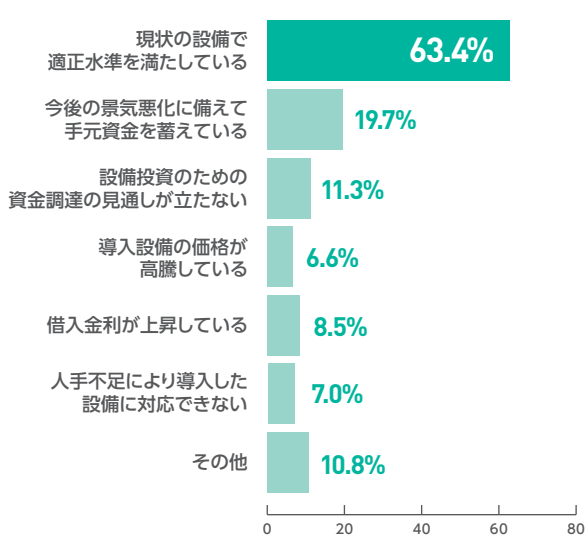


また「予定している」と回答された方はどのような設備の導入を検討していますか。 ※最大2つ選択



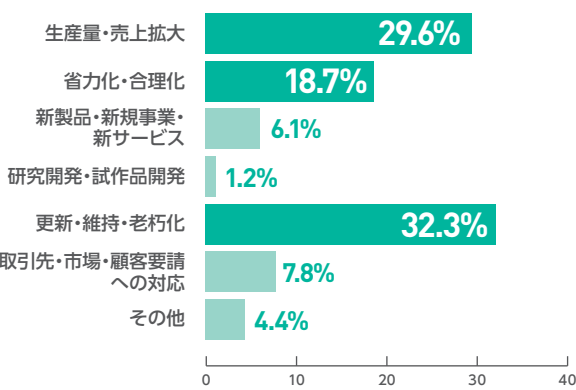
Q2

Q1で「予定していない」と回答された方は、その主な要因についてお答えください。 ※最大2つ選択



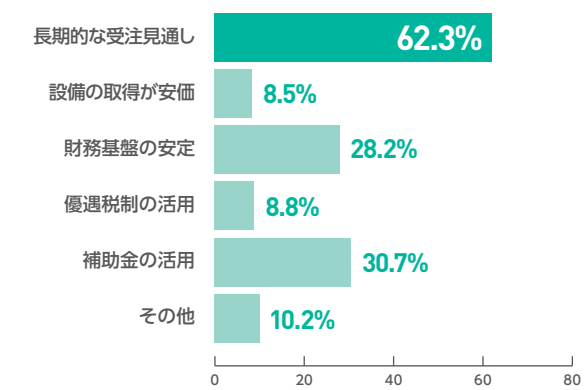
Q3

貴社が設備投資を検討する際に最も重視する項目についてお答えください。 ※1つ選択



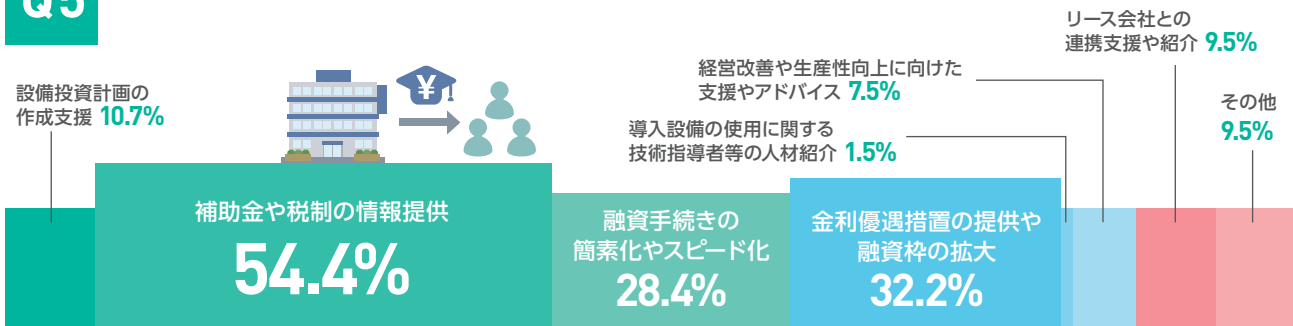
Q4

貴社にとって設備投資を後押しする要因としてどのようなものが考えられますか。 ※最大2つ選択



Q5

設備投資を行う際に、貴社が取引金融機関に求める支援策についてお答えください。 ※最大2つ選択



特 別 調 査
1

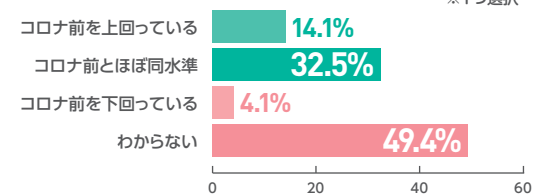
外国人・海外情勢と中小企業

近年、海外市場の動向や国際情勢の変化が、中小企業の事業運営にさまざまな影響を及ぼしています。また、人手不足の解消や拡大のために外国人人材の採用を検討・導入する企業も増えていきます。今回のアンケートでは、こうした海外情勢や外国人との関わりが企業の経営や業務にどのような影響を与えているかについて、アンケートを実施いたしました。

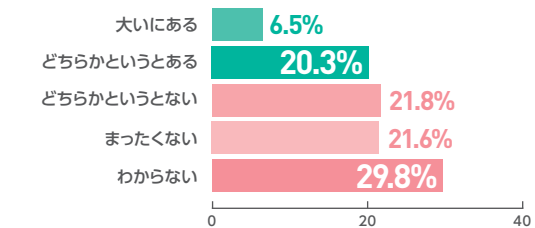
調査時期／2025年2月12日～3月6日 調査対象企業数／1583社 有効回答数／419社 有効回答率／26.5% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

Q1

昨今貴社を取り巻く事業環境や地域社会の中で、外国の方と接触する機会がコロナ前の水準に戻っているという実感はありますか。 ※1つ選択

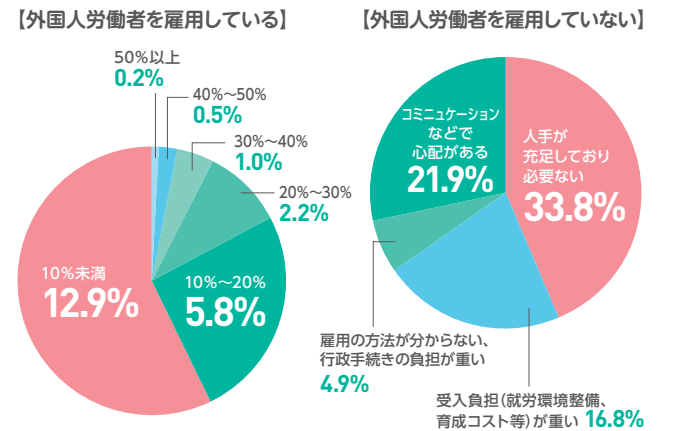


また、外国とのかかわりの中で今後ビジネスチャンスを増やしたいという意向はありますか。 ※1つ選択



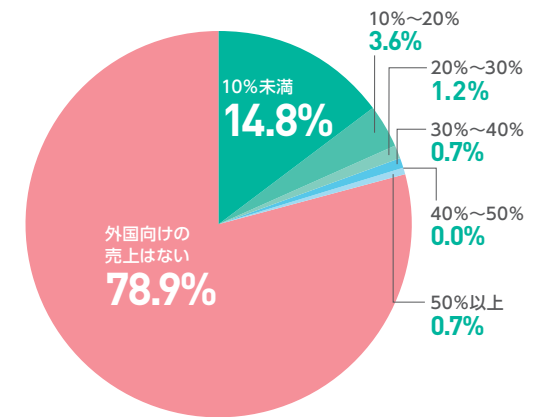
Q2

貴社では、外国人労働者を雇用していますか。雇用している場合は、従業員全体に占める外国人労働者の割合をお答えください。雇用していない場合は、外国人労働者を雇用していない理由をお答えください。 ※1つ選択



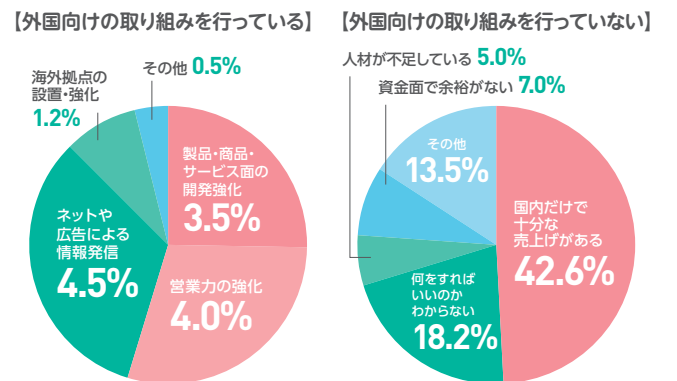
Q3

貴社では、売上全体に占める外国人（旅行客を含む）、もしくは外国企業向けの売上（輸出を含む）はどれくらいですか。 ※1つ選択



Q4

貴社では、外国向けの売上げを増加させるための取り組みを行っていますか。行っている企業は、特に行っている取り組みについてお答えください。行っていない企業は、行っていない理由をお答えください。 ※1つ選択



特別設問

Q5

貴社では、人材定着などに向けて、2025年中に賃金（定期昇給分除く、賞与や一時金除く）の引上げを実施（実施予定を含む）しますか。引上げる場合はその賃金引上げ率についてお答えください。また、引上げない場合は引上げなかった理由についてお答えください。 ※1つ選択

